

兵庫県医師会医療支援チーム（第42陣）「宮城県災害支援現地報告」

川西市医師会 中村 多一

患者受診者数が減少し、第35陣チームより、1チーム5人（医師一人、看護師2人、事務局員2人）の構成となっており、本チームも5人で支援活動いたしました。震災後約3か月が経過しており、兵庫県医師会医療支援チームの担当範囲の救護所・巡回避難所の患者受診状況は、合計一日約15名程度となっており、主に慢性疾患の継続治療の患者さんであった。担當時点では、石巻地区の救護活動は縮小させて、避難者の自立を促していく方針で動いています。兵庫県医師会医療支援も6月19日に終了し、当エリアは、東京都多摩地区チームに引き継がれます。その多摩地区チームも6月30日に支援終了となる予定です。その後は近医の地元医療機関に診療を引き継いでいただく予定となっています。この点で気になることは、救護所と地元医師会とはコンタクトがなかったこと、また、救護所を訪れた患者さんに治療継続のために紹介状を渡していても近医を受診していないケースが多かったことで、スムーズに移行できるか心配になります。

短期間の派遣任務でしたが、この間に感じたことは、避難者はストレスが蓄積している様子で、今後は、精神面のサポートが必要になると思われます。また、気温が上昇してきており、一部の避難所では、ハエの発生が問題になっており、衛生面のサポート継続が必要と考えます。

最後に、今回の支援活動を支えていただいた看護師、事務方のスタッフの方々に感謝いたします。